

# 地域 学校支援 本部事業



## 実施市町村

- 桑折町
- 大玉村
- 本宮市
- 鏡石町
- 田村市
- 三春町
- 玉川村
- 西郷村
- 鮫川村
- 西会津町
- 北塩原村
- 三島町
- 相馬市



# 桑折町学校支援地域本部【福島県桑折町】 ～地域で子どもを育てよう～

## 事業の目的

- 学校、家庭、地域の連携を強め、学校教育を支援する体験活動、ボランティア活動支援センターを更に発展させた組織づくりを推進することにより、教師や地域住民が子どもと向き合う時間の増加を計り、学習成果とボランティアの活用機会を拡充し、地域教育力の活性化につとめる。

## 実施対象学校名

- 醸芳小学校. 睦合小学校. 半田醸芳小学校. 伊達崎小学校. 醸芳中学校

## 実施機関

- ① 桑折町教育委員会 生涯学習課生涯学習係 中央公民館
- ② コーディネーター 石岡 恒憲
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 H24. 3現在85件 延べ232名
  - ・ サポーター登録数 101名 8団体

## 事業運営

- ・ 会議 支援センター事業関係者合同会議(地域教育協議会  
は本会議で替える)
- ・ 年2回開催。及び中間報告書の作成
- ・ 教育計画に基づくサポーター要請計画の作成と活用(各校)
- ・ 学校支援活動の活性化(サポーターの派遣)
- ・ こおり地域クラブ活動の充実
- ・ 体験チャレンジ活動。広報誌(支援センターだより)の発行
- ・ 文化祭参加
- ・ コーディネーターを中心とした学校・地域住民(サポーター)  
の密接な連携 協力、相互理解の増強



伊達崎小5年道徳「夢の実現」  
桑折で誕生したりんご(王林)  
(新品種の開発)

## 支援内容

- 支援内容(学習支援、学校行事支援)

自然関係、科学教室、地層観察、登山体験、ロバ乗馬、福祉関係(車いす体験・視覚障害者体験)、メダカの誕生、ホテルの一生、写真撮影の苦労、環境問題(自然保護<オオタカの観察>)、NPO(桜の植樹、ハス花)、道徳、生命尊重、保健師(具体的教材活用により専門知識をわかり易く)、郷土を見直す(伝える)、稚児舞、銀細工職人、王林(りんご)の原木(新品種の開発)、茶道、華道の体験、グランドゴルフ、バウンドテニス、サッカー、チビっ子夏祭り(太鼓、笛)、本の読み聞かせ、創立記念日、昔の学校生活、昔話を聞く、絵手紙を描く、史跡見学(銀山遺跡、伊達家始祖、旧伊達郡役所、古墳)、町美術館見学、こおり地域クラブ支援(年間)月2回、20クラブ、町内小学校延べ211名(32%参加)個人、グループ、団体(老人会、婦人会、文化団体連絡協議会、農協、その他)の支援協力を得る



こおり地域クラブ「工作クラブ」

## 成果

- ・ 人材協力支援バンク名簿登載とサポーター養成計画の活用
- ・ コーディネーターと学校、サポーター間の人間関係、相互理解の深化
- ・ 児童の学習意欲の増強(学習活動する喜びの体得)
- ・ 老人サポーターの喜々とした活動、認められ、必要とされている自覚 → サポーターの自信、新サポーターの発掘
- ・ サポーターへの御礼手紙、写真は好評、次の意欲への進展

# 大玉村学校支援地域本部【福島県大玉村】

## 事業の目的

○大玉村の公立学校・幼稚園等の学校教育(幼稚園教育)に地域住民がボランティアとして支援することで教員や地域の大人が児童、生徒と向き合う時間を確保し教育効果を高める。また、地域住民の学習成果の活用機会の拡充と地域教育力の向上、活性化を図る。

## 実施学校名

○大玉村立大玉中学校 ○大玉村立大山小学校 ○大玉村立玉井小学校 ○大玉村立大山幼稚園 ○大玉村立玉井幼稚園

## 実施機関

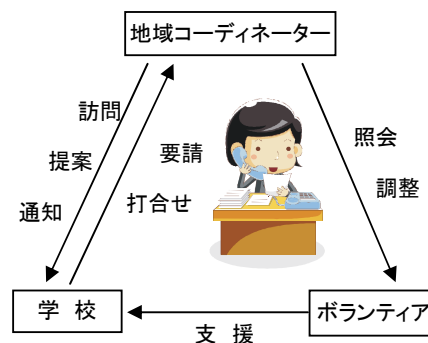
○大玉村地域教育協議会

## 事業運営

- ①大玉村教育委員会 生涯学習課      ②コーディネーター  
③学校支援ボランティア 登録人数95名(23年度支援実績66件  
実働延べ人数413名)

## コーディネーター活動状況

- 勤務日・時間 月曜日～金曜日 午後1時～5時(4時間)  
○勤務場所 教育委員会事務局  
○勤務内容 実施学校を訪問しボランティア活用のアプローチ、ボランティアとの連絡調整、年3回の学校支援地域本部だよりの作成など



## 支援内容

- 安全パトロール: 登下校時の見守り・緊急時の付き添い(通年)  
○学習支援: 授業補助・校外活動補助(45回)  
○学校行事支援: 懇談会児童見守り・運動会・文化祭の補助(29回)  
○保育活動の補助: 園外保育引率・行事補助(23回)  
○本の読み聞かせ(24回)  
○環境整備: 樹木の剪定・備品製作・図書整理・緑のカーテン(13回)  
○その他: 賞状あて名書き・昼休み図書館支援(6回) など



登下校時の見守り



幼稚園もちつき会補助



中学校文化祭フラダンス指導



本の読み聞かせ



幼稚園そり遊びの補助



家庭科ミシン授業補助

## ボランティア研修

- 子供読書活動支援者のための研修会  
学校支援地域本部・放課後子ども教室・読み聞かせに携わるボランティアの資質向上・人材育成  
於: 松川小学校 『学習に生きる学校図書館の活用』についての講演 講師: 松川小学校司書教諭



- ボランティア懇談会  
活動をする上での意見交換会(指導助言: 大玉村教育委員会指導主事及び県北教育事務所総務社会教育課の社会教育主事)



## 成果と課題

- 学校側から・・・地域の皆さんが学校に対して協力的でありたい。これからも積極的に活用していきたい。  
○ボランティア側から・・・ボランティアも学校も慣れが大切。回数をこなしていくうち活動の幅が出てくるし負担感も少なくなるはず。  
○コーディネーターから・・・ボランティアの登録数も少しずつ増えて地域の方の理解も深まってきたと思う。学校の要望とボランティアの希望のどちらも叶うように皆様の声に耳を傾けながらこれからの支援を考えていきたい。  
○教育委員会から・・・3年目に入り、学校側の受け入れ体制も整ってきた。様々な分野での要請が増え、多くのボランティアに協力をいただき、円滑に事業を進めることができた。平成24年度は学校が地域づくりの核となるよう地域教育力の向上を推進していきたい。



# 本宮市学校支援地域本部【福島県本宮市】

## 事業の目的

地域の人々の人的教育力を活かして、教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築に資する。

## 実施学校名

本宮市立本宮第一中学校  
 本宮市立本宮第二中学校  
 本宮市立白沢中学校  
 本宮市立本宮小学校  
 本宮市立本宮まゆみ小学校  
 本宮市立五百川小学校  
 本宮市立岩根小学校  
 本宮市立糠沢小学校  
 本宮市立和田小学校  
 本宮市立白岩小学校  
 以上 3中学校 7小学校

## 実施機関

本宮市生涯学習センター

**本宮市学校支援地域本部の特徴**  
 体験活動・ボランティア活動支援センターの連携事業として21年度よりスタート。外部講師による体験型授業支援は継続して同センターにて実施。

## 事業運営

事務局：本宮市生涯学習センター  
 地域コーディネーター  
 学校支援ボランティア



【学校支援ボランティア懇談会の様子】  
 50名を超える参加者との交流を兼ねた体験型の実践発表で会場は盛り上がりました。

## 地域教育協議会

委員長：本宮第一中学校長 副委員長：本宮小学校長  
 委員：小中学校長、PTA連絡協議会長、社会福祉協議会代表、交通教育専門員代表、体育協会長、民生委員協議会長  
 体験活動・ボランティア活動支援センターコーディネーター、生涯学習センター長 計19名

## 今年度の取り組み状況

**今年度支援実績：活動総数157件 参加ボランティア延べ324名**

### 学習支援

植物観察指導補助・裁縫指導補助・水泳指導補助・リコーダー指導補助・書写指導補助・新入生の学習及び学校生活支援  
 環境整備

除草作業・枯葉掃除・花壇手入れ・学校HP更新作業

### 安全活動

校外活動付き添い・授業参観時の幼児及び児童の預かり・運動会手伝い・内部被ばく量検査時の手伝い

### 図書活動

読み聞かせ・昔話語り・返却本整理・図書室壁面装飾・新規本の整理・図書室書架整理・震災後の図書室機能復旧作業

## 支援内容例

【水泳指導補助】



【ミシン指導補助】



【書写指導補助】



【花壇の手入れ】



【リコーダー指導補助】



【図書室整理・装飾】



## 成果と課題

### 成果

的確な学校のニーズ把握と適正なボランティアの紹介による支援活動の継続・拡大  
 広報活動の推進（公民館掲示板活用・学校への実施例集配布）  
 コーディネーター育成（地域コーディネーター養成講座の実施）  
 事業本部・ボランティア間の関係構築（ボランティア懇談会開催やアンケート実施）

### 課題

コーディネートの流れの整備とノウハウの蓄積  
 人材バンクの整備  
 体験活動・ボランティア活動支援センターとの将来的な支援体制の協議検討



全国体ボラセンター橋本洋光先生を迎えコーディネーター養成講座を開催

# 鏡石町学校支援地域本部【福島県鏡石町】 ～「鏡石町学校応援団！」～

## 事業の目的

○ いじめや不登校、学力・体力の低下、特別支援を必要とする子どもの増加など、学校は様々な課題を抱えているが、現在の体制(教員数)で現状を打開するのは困難な状況にある。そこで、地域が学校を支援する組織体制を構築し、地域住民が個々の特性を生かして教育活動に参加することで教育活動を効果的に展開し、「地域全体で子どもを育てる」という意識の醸成を図りながら、地域の教育力および地域コミュニティの再生へとつなげていく。

## 実施学校名

○ 鏡石町立鏡石中学校 ○ 鏡石町立第一小学校 ○ 鏡石町立第二小学校 ○ 鏡石町立鏡石幼稚園

## 協力団体

○ 婦人会 ○ 汗流会 ○ 老人クラブ ○ 語り部  
○ 交通安全協会 ○ 図書ボランティア  
○ かがみいしスポーツクラブ  
○ 育児サークル  
○ あゆみらい ○ ボランティアセンター

## 事業運営

① 鏡石町教育委員会(鏡石町公民館)  
② コーディネーター:須藤 基子  
③ 学校支援ボランティア  
・ 支援実績37件 180回 延べ935名  
・ 登録81名 10団体



フォトフレーム作り

## 実施機関

○ 鏡石町学校支援地域本部  
○ 鏡石町地域教育協議会

## 支援本部の充実に向けた取り組み

○「広報活動」の実施・・・メディアへの記事提供、ホットカフェほのぼのへの参加。  
○「ボランティアのつどい」の実施・・・ボランティアの資質の向上及び交流。  
○「支援活動の振り返り」の実施・・・「ボランティア振り返り用紙」、「反省FAX」の活用。

## 応援内容

- ① 授業支援・・・体育科(スキー教室・陸上指導)、家庭科(裁縫・ミシン補助、幼児ふれあい) 社会科(戦争体験)、読み聞かせ、図工(リサイクル工芸)
- ② 行事支援・・・交通安全教室(自転車点検・指導補助)、なわとび記録会補助 体力テスト運営補助、クリーン作戦、授業参観等(駐車場整理・児童預かり)、入学式・卒業式(受付・来賓接待)
- ③ その他の支援・・・夏休みフリー寺子屋、学習コンテスト採点、保育活動(サッカー教室)、親子ふれあい体操指導 環境整備(花壇の整理、落ち葉はき)、昔あそび指導、楽器運搬、バス通学補助、図書ボランティア、下校引率



バス通サポート ～乗車～



ボランティアのつどい



夏休みフリー寺子屋

※ 臨時バスによる登校時の安全補助支援  
東日本大震災により、第一小学校校舎が甚大な被害を受け、1学期は第二小学校と構造改善センターに分かれての授業を余儀なくされ、臨時バスによる登校という非常事態の中での授業となりました。  
そんな中、登校時の子どもたちの安全確保のため、ボランティアはバス通学の昇降等の補助や、バスが到着するまでの間、待機児童のサポートを実施しました。

## 成果と課題

### ◇ 成果

- ・震災後にもかかわらず、例年以上にボランティアの申請があった。
- ・震災直後、関係者から「こういう時だからこそ、子ども達のために」と、支援の輪が広がった。
- ・保護者や町外のボランティアが、学校間の垣根を越えて活動できた。
- ・これまでの実績を通して、各学校から課題や目標の提示があり、今後の目標達成に向けて、連絡調整を重ねていく体制ができてきた。
- ・震災による不安や恐怖の中、支援要請に応える度に、子どもたちボランティア、先生方に心の安心やつながりが深まった。

### ◆ 課題

- ・学校や地域ボランティアが支援を通じて元気になるだけでなく、「その先の支援」を目指す町全体としての目標づくり。
- ・再就職、高齢等によるボランティア数の減少に対応するため新規登録ボランティアの確保。
- ・コーディネーターの質の向上(研修・ネットワークの構築)。
- ・該当外の教育機関に対する支援の必要性についての検討。
- ・焦らず、無理なく続く支援体制の確立。



# 田村市学校支援地域本部【福島県田村市】 ～『ときわっこサポーター』の知恵と力を学校へ～

## 事業の目的

- 子どもたちを健やかに育むため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携を構築し、学校支援活動や登下校の安全確保の為に活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもの向き合う時間の増加や、住民等の学習成果の活動機会の拡充及び地域教育力の活性化を図るとともに地域全体のコミュニケーション力を高めることを目的とする。

## 実施対象学校名

- 常葉中学校 ○ 関本小学校
- 常葉小学校 ○ 西向小学校
- 以上3小学校、1中学校で実施



常葉町イメージキャラクター

## 事業運営

- ① 田村市教育委員会(常葉公民館)
- ② コーディネーター: 増田英子
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・支援実績 610件
  - 延べ1263名(含PTA活動等)
  - ・登録143名 4団体



団子さしのいわれは?・・・いろいろ教えてもらいながら、団子をさした後は、折り紙や紙でつぼう、コマ回しなどで楽しんだ。

## 協力団体

- 田村市シルバー人材センター
- 田村市食生活改善委員常葉支部
- 地域安全サポーターふれ愛隊“ときわ”
- 農協婦人部(ひまわり会)等

## 今年度はこんな活動も・・・



東日本大震災で各学校に支援物資として届けられた200枚ほどのタオル。10人ほどのおばあちゃんたちが集会所に集まって、一針、一針手縫いで雑巾に縫い上げた。全国の地名が入ったタオルを見ては、支援のありがたさを再確認していた。

## 支援内容(具体例)

### ○学習支援・・・

ミシン、書き初め、リトミック、和楽器、調理実習  
森林教育(森林について講演・本棚の作成)

### ○スポーツ支援・・・

部活動(卓球・バレーボール・野球・サッカー・駅伝・ソフトボール)、体育授業(柔道)

### ○安全支援・・・

交通安全教室、防犯教室、登下校の見守り

### ○学校行事支援・・・

町探検、笠踊り指導



### ○体験活動支援・・・

団子・しそジュース・和菓子作り  
昔遊び、竹とんぼ、リース作り

### ○図書支援・・・

読み聞かせ、民話語り、書籍の整理、手作り菜の配布

### ○環境整備支援・・・

除草、花壇の手入れ、校庭樹木の剪定  
樹木の消毒、へちま棚作り

和楽器教室では、楽器の種類が増え、レベルアップした授業ができた。また、昨年2校で実施した門松の設置は全校で実施された。

今年で6年目を迎える  
月1回の読み聞かせ



新年度開始とともに実施された

## 拠点を学校の空き教室へ

震災の影響で本事業が開始されたのが7月。読み聞かせや学習支援などの継続支援は4月から始まっていたため、1小学校の空き教室をボランティアルームとして利用。児童が自由に出入りでき、休み時間に来て折り紙をしたり遊んだりすることもある。また、地域の人に声をかけ、物づくりを楽しんだりする。学校と地域の繋がりはもちろん、児童との繋がりを太くしていくこと、またコーディネーターにとっても今までとは違う視点から実施していくことができるなどいろいろな可能性がでてくる。



## 成果と課題

### <成果>

- シルバー人材センターの支援を通し、地域以外の方たちとの接点が生まれた。
- 屋外活動の規制を受けた中、いろいろな体験活動をすることができた。
- 児童と地域との輪が広がった。

### <課題>

- 中学校での柔道支援について、特に安全面を考慮した場合支援本部でできる支援とは?
- 市内の他の地域本部との連携により、さらに発展させるには?
- ボランティア同士の連携を深めるには?

# 田村市学校支援地域本部【福島県田村市】 ～ たきねっ子応援隊!! ～

## 事業の目的

○子どもたちを健やかに育むため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携体制を構築し、学習支援活動や登下校の安全確保のための活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもの向き合う時間の増加や住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域教育力の活性化を図ることを目的とする。

## 実施対象学校名

○滝根中学校  
○滝根小学校  
○菅谷小学校  
○広瀬小学校  
以上、3小学校、1中学校で実施

## 事業運営

- ① 実施機関：田村市教育委員会(滝根公民館)
- ② コーディネーター：橋本真由美
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 4件(延べ 33名)
  - ・ 登録 23名 1団体



中学校部活動の様子。女子バレーボール部スポ少から引き続き指導に入っている。

## 広報活動

- 公民館内に活動写真を掲示
- 活動報告書の発行



## 今までの流れ

○平成23年12月に滝根地域本部事業がスタート。支援するにあたりボランティア登録者募集活動を最優先とした。読み聞かせなどボランティア団体には、継続事業として積極的に事業参加を呼びかけた。

## 支援内容

- スポーツ支援・・・中学校部活動(女子バレーボール部)
- 図書支援・・・絵本の読み聞かせ、おはなし会(菅谷小学校で毎週火曜日 放課後20分間、1年～3年生を対象に実施。他小学校においては、年2～3回実施。)
- 学校行事支援・・・PTA総会等待機児童の見守り(総会及び学年懇談が開催されている約1時間30分の間、読み聞かせの時間を設定する等見守りを実施。)

平成23年度実績

活動種別	実績回数	実績人数
部活動支援	8	8
図書支援	10	20
学校行事支援	2	5



総会時待機児童の見守りの様子(おはなし会)

## 他事業との関連

- 放課後子ども教室との連携により、学校での活動を経験している方が出向くことで、児童・先生が安心してボランティアを受け入れることができる体制が整っている。
- 読み聞かせボランティアが定期的に学校を訪問し子どもたちとの絆をより一層深めることができた。

## 成果と課題

### ○成果

- 1、技術的、専門的な指導により学習成果の向上
- 2、地域の方とのコミュニケーション能力の向上
- 3、地域住民と教職員の交流

### ○課題

- 1、ボランティア募集(適材人材の確保)
- 2、守秘義務や安全管理(マニュアルの整備)
- 3、計画的な教育活動の支援



# 岩江小中学校支援地域本部【福島県三春町】

## 事業の目的

- 3. 11の東日本大震災、原子力発電所事故を受け、地域の子どもたちを守るため、学校と地域が連携し、学校活動を支援。
- 学校のニーズに応え、地域の人材を発掘し、学校を支援していく地域づくりを目指す。

## 実施対象学校名

- 岩江中学校
- 岩江小学校

## 事業運営

- ① 実施機関：三春町教育委員会生涯学習課
- ② コーディネーター：真壁岩友
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 53件(延べ532名)

## 協力団体

- 岩江まちづくり協会

## コーディネーターの役割

○コーディネーターは、地域の核になる公民館分館の職員(町臨時職員)で、施設が対象学校の間近にあることから、日常的に学校との連携が図れたことは、事業実施のうえで大きな効果があった。

また、地域に長く居住し、地域の多様な人材を把握しており、学校からの要請に応える人材の提供はもちろん、学校への様々な提言も行えた。

今年度は、除染作業が大きな比率をもったが、今後は様々な分野での支援が期待できる。



校内の桜の枝が通学路に張り出し、生徒・通行者の支障となっていることから、ボランティアによる支障枝除去を実施した。

## 支援内容(具体例)

### 【岩江中学校】

- 施設環境整備：学校林の整備、通学路の支障枝除去作業
- 安全確保：通学路除染、除雪作業



桜支障枝除去作業の参加者

### 【岩江小学校】

- 施設環境整備：学童農園の整備
- 安全確保：通学路除染、除雪作業



通学路除染活動の様子



通学路除染活動の様子

## 特色ある取組み

○東日本大震災と原子力発電所の事故により、学校と通学路を中心とした周辺環境に対する危険意識が高まっていたため、今年度の事業を「子どもたちの安全」をテーマに取り組みをした。

○年度前半は、学校施設の被災や校庭の表土除去等、行政による環境の改善事業が実施されたため、年度後半に集中的に取り組むこととし、ボランティアによる除染活動を実施するとともに、冬場の除雪作業にいたるまで、地域住民の積極的にかかわりを求めながら実施した。

## 成果と課題

### 【成果】

○岩江地区は、三春町内では人口集住地域であるが、郡山市のベッドタウン的立地にあることから、地域住民間の連携が薄いと考えられがちだが、新興住宅地に小中学校が含まれる形で地域形成がなされているため、学校を核とした連携が比較的取りやすい地区である。

○このような環境を利用し、今年度は地域住民で組織されている岩江まちづくり協会を支援団体に意識し、支援事業のボランティアを依頼することで、学校を支援しようという意識がさらに高まったと考えられる。

○学校長より：学校からの依頼に対し、コーディネーターの方に即座に対応していただいたので、たいへん助かった。今年度は、震災の影響で事業を十分利用できなかったが、地元の方の協力で、教員も子どもたちと向き合う時間が確保できた。



# 三春中学校支援地域本部【福島県三春町】

## 事業の目的

地域人材や団体などの協力・参加を得て、互恵性の観点にたち、学校と地域との連携関係を構築し、地域全体で学校教育を支援する体制の整備・充実を図るとともに、活動をととして地域の活性化をめざす。

- ① 教員と子どもが向き合う時間を拡充し、子ども一人ひとりに対するきめ細かな指導の展開に資する。
- ② 学校事故、非常変災、交通事故などの学校関係事故などの絶無を図り、学びの場にふさわしい安全・安心な環境づくりに資する。
- ③ 相互に活動し合うことにより、活動の場としての地域社会の活性化をめざす。

## 実施対象学校名

○三春町立 三春中学校  
(平成25年4月に4校統合による新中学校が開校する。  
開校に向けこれまで以上に地域との連携が重要になっている。)

## 事業運営

- ① 実施機関: 三春町教育委員会  
(生涯学習課)
- ② 学校支援地域コーディネーター  
2名  
(父母と教師の会 会長、副会長)
- ③ 学校支援ボランティア  
支援実績 33件 のべ255人

## 実施機関

三春中学校区学校支援地域事業  
「学校安全地域支援会議」

## 今年度の主な取り組み

- ① 部活動支援
- ② 学校と地域の連携強化



新三春中学校 俯瞰図

## 支援内容(具体例)

### ① 部活動支援

・指導協力  
(子ども一人ひとりに対し、よりきめ細やかな指導及び専門的な指導を可能にした。)

・練習試合、ミニ大会の審判協力  
(練習試合やミニ大会の円滑な運営に寄与した。)

・生徒及び顧問の先生と指導協力者の親睦会の開催  
(指導協力が円滑に進められるように、親睦を深める催しを開催した。)



ボランティアによる指導風景

### ② 学校と地域の連携強化

②-1 地域防災、防犯の要である三春町消防団三春分団(三春町防犯協会三春支部)との連携強化

・非常変事などにおける地域との連携強化のため、三春町消防団三春分団(三春町防犯協会三春支部)との独自の連絡体系を確立する。

②-2 地区代表の方々との連携強化

・これまでは、PTAの各方部長を窓口として各地区との連携を図ってきたため、地区の代表者の方々との交流はなかった。そのため、地区代表者である各代表区長さんとの交流の機会を作るため、学校行事へのご臨席をお願いし快諾を得たことで、更なる学校と地域の連携強化が図られた。



代表区長さんほか地域代表の方々との懇談風景

## 成果と課題(学校の声)

① 学校の支援者として実に積極的にバックアップいただいた。大震災でもみられたように、学校と地域が密に連携を図り、避難所として学校が機能する場合、学校から最も近い地域の方々から学校を守っていただく場合など、さまざまな連携が必要であり、その土台作りが展開された。

② 部活動支援に関しては、学校で設置している部活動の多くの顧問が専門外であるという実情をふまえ、専門的な知識・技能をもっている地域の方の支援をいただきつつ、部活動の競技力向上、生徒の健全育成に大きく寄与していただいた。地域と学校が相互に連携を図りつつ、学校がその機能を果たすことにより、さらには、学校の活性化によって地域がさらに活性化することが今後ますます大切になってくるものと考えらる。

# 沢石中学校支援地域本部【福島県三春町】

## 事業の目的

○沢石中学校は、他の地域に比較して、学校と地域社会との連携が形成されているが、少子高齢化社会が顕著な地域であり、さまざまな学校行事への地域住民の参加を通じ、活発な学校運営と、世代間交流を果たすことを目的とし、事業を実施した。

## 実施対象学校名

○沢石中学校  
三春町北部に位置する、全校生徒47人という小規模校。  
地域における中学生の役割を積極的に果たす目的で、「絆プロジェクト」を実施するなど、活発な活動を展開している。

## 事業運営

- ① 実施機関：三春町教育委員会生涯学習課
- ② コーディネーター：佐久間島徳
- ③ 学校支援ボランティア  
・ 支援実績 14件(延べ93名)

## 協力団体

○朋友会(沢石地区青年団)      ○沢石まちづくり協会

## コーディネーターの役割

○コーディネーターは元PTA会長であり、地元で商店を営んでいることから、地元住民とのかかわりも緊密な方である。  
○地元生まれ、地元育ち、対象校のOBという経歴も、地域が学校へどのように係ることが最適かを判断するうえで、たいへん重要な要素であった。  
東日本大震災後という最悪の環境下、限定された学校運営の中で、学校と地域の橋渡し役として活動していただいた。



資源回収の様子

## 支援内容(具体例)

- 沢石盆踊りでの世代間交流支援  
沢石地区の盆踊りが学校施設を活用して実施されるため、例年生徒の多数が参加している。こうした状況を踏まえ、地元青年団の協力を仰ぎ、世代間交流が積極的に図れるよう依頼。また、生徒をはじめとする参加者の安全確保のための学校施設整備、盆踊り後の施設復旧のため、同じく地元青年団の協力を得た。
- 部活応援  
合唱部激励会開催支援。
- 地域清掃活動への支援  
生徒・PTAによる資源回収に協力。
- 学習支援  
森林環境学習への講師斡旋。
- 学校行事への支援  
文化祭へ模擬店出店について、地元商店が支援。  
公開全校レクリエーションについて、地元の住民参加。



沢石盆踊りに参加した生徒たち



森林環境学習の様子



文化祭への模擬店出店



森林環境学習での生徒たち

## 特色ある取組み

○沢石中学校は、地域住民とのかかわりとして「絆プロジェクト」と呼ぶ事業を実施している。このプロジェクトは、「地域で中学生が役割を担う活動」を行うものだが、学校支援地域本部事業は、その逆バージョンとして実施した。  
特色のあるものとして、中学生の盆踊りへの参加(笛や太鼓の演奏参加、踊り自体への参加)に対して、指導者の斡旋や世代間交流が推し進められるように工夫するなど、学校と地域の双方向での交流が活性化するよう取り組んだ点が挙げられる。



沢石盆踊りの様子

## 成果と課題

○全校生徒が47名という、小規模中学校ではあるが、生徒が地域とどのようにかかわるか、地域が学校とどのようにかかわるかという、双方向の関係を構築するうえで、学校支援本部事業は有効な成果を上げた。特に、学校事業や地域行事への参加交流は、地域の子どもを地域が育てる意識を生み出すとともに、地域の人々が自分たちにかかわりを持っていることを生徒たちに意識させた点は大きな成果であった。  
○今後もさらに、地域の中での学校を意識し、活動を続けていきたいと考えている。



# 玉川村学校支援地域本部【福島県玉川村】

## 事業の目的

- 村内2中学校区を中心として幼稚園を含め、学校教育に地域住民がボランティアとして支援することで、教員が児童生徒と向き合う時間を確保し、教育効果を図る。
- 地域人材の学習成果の活用機会の拡充と地域教育力の向上、活性化を図る。

## 実施対象学校名

- 泉中学校 ○いずみ幼稚園 ○玉川第一小学校
- 川辺小学校 ○須釜中学校 ○すがま幼稚園 ○須釜小学校

## 事業運営

- ① 実施機関: 玉川村教育委員会
- ② コーディネーター: 玉川村公民館(我妻亜希子)
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 84件(延べ 136名)
  - ・ 登録 37名 協力団体 3団体

## コーディネーター活用状況

- 勤務日・時間 : 月曜日～金曜日 午前8時～12時(4時間)
- 勤務場所 : 教育委員会事務局
- 勤務内容 : 実施学校を訪問し、ボランティア活用のアプローチ、ボランティアとの連絡調整。ボランティア募集のチラシや活動内容紹介のチラシづくりなど。

## 協力団体

- おはなしクックちゃんよみかせ会 ○語り部



(昔語りをきく幼稚園児)

## 支援内容(具体例)

- 環境整備事業(泉中学校区を中心に学校では手の廻らない箇所を草刈作業)
- 学習支援(須釜中学校では、音楽の授業の発展として琴奏者を招待し「先輩に生き方を学ぶ」キャリア教育と連動させた)
- 安全パトロール(川辺小学校においては、毎日の登下校が保護者や地域住民の引率で実践されている。事業以前の歴史ある見守り隊組織である)
- 学校行事補助(須釜小学校では、村外行事に引率する際、個別指導を最優先するためにボランティアの活用を図る)
- 本の読み聞かせ(玉一小、川辺小では、それぞれの学校の日課表に合わせて、効果的にボランティアを活用した)
- 絵本の読み聞かせと図書の貸し出し(2幼稚園では、週1回の割合で絵本の読み聞かせや自宅での読書活用を推進するため、貸し出しを推進した)
- 図書室の整備(学校図書の大量購入に伴い、その処理作業に経験を持つボランティアの協力依頼があった)



(琴の演奏と生き方を学ぶ)



(読み聞かせを楽しむ小学生)

## 特色ある取組み

- ボランティア研修会(公民館事業とのタイアップで行う)
  - ・ 読み聞かせ講習会
  - ・ 図書修理講習会
- ボランティア意見交換会  
(登録ボランティア全体で話し合う機会をつくり、更に充実する方策を練る機会とした)

## 成果と課題

- できるところから無理なくスタートしたので、ボランティア支援を展開することができた。
- 学校等が必要とする支援内容から実践に入ったため、一部偏った活用しか展開できなかったことは課題である。前年度に教育課程編成時点で検討をするように依頼したが、十分でなかった点が見られた。
- コーディネーターは、図書館司書事務補助との兼務で初年度実践したが、ボランティア登録者と連携協力し意思疎通を図りながらきめ細かく活動することができた。
- 学校は、実践した領域は成果が見られることを実感できた。導入する領域の拡大を図っていきたいと考えている。

# 西郷村学校支援地域本部【福島県西郷村】 ～みんなで学校を支える、みんなで子どもを育む～

## 事業の目的

○子どもたちを健やかに育むため、地域全体で学校を支えることができる体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、地域住民の学習成果の機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることを目的とする。

## 実施対象学校名

- 西郷第一学校支援本部(西郷第一中学校、熊倉小学校、米小学校 羽太小学校)
- 西郷第二学校支援本部(西郷第二中学校、小田倉小学校)
- 川谷学校支援本部(川谷中学校、川谷小学校)

## 事業運営

- ① 実施機関: 西郷村教育委員会生涯学習課
- ② コーディネーター: 高田 雅雄(西郷第一) 柏 明(西郷第二) 金岡 修二(川谷)
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 83件
  - ・ 支援ボランティア延べ 269名

## コーディネーターの役割

○つなぐ、結ぶ  
「ボランティアの応援がほしい」と思っている学校と「ボランティア活動をしたい」と思っている地域住民との間に立ち両者を結び付けるだけでなく、両者の思いを受けとめ「協働」という関係で、一緒に活動をつくり上げていくための調整をします。

## 協力団体

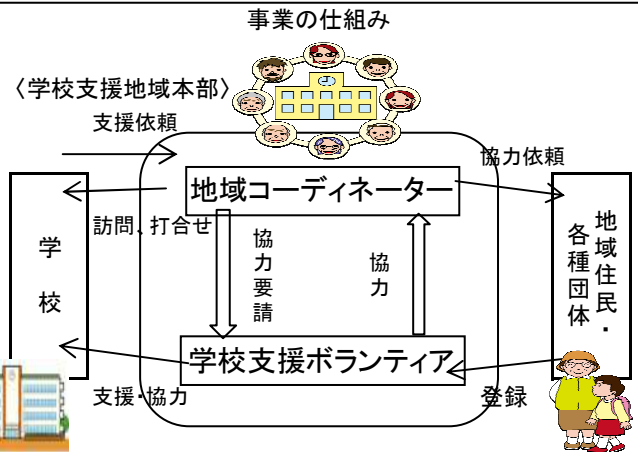
- 西郷村地域安全推進協議会
- 西郷村子どもの安全見守り隊連絡協議会
- 西郷ボランティアの会
- 西郷村PTA連絡協議会
- 西郷村民生児童委員協議会
- 西郷村老人クラブ
- 西郷村児童クラブ
- 各小・中学校PTA など



昔遊び体験補助・指導

## 支援内容

- 学習支援 書き初め指導、バックテスト(水質調査)補助、家庭科授業時のミシンの調整・操作補助、もちつき大会補助  
心の教育講演会、サツマイモ掘り指導、校外学習の引率  
農業体験学習の補助、昔あそび体験での指導・補助
- 環境整備 植木の剪定、落ち葉はき、花壇の除染  
サツマイモ畑の耕し、学校地内及び通学路の除草  
学習林の環境整備、学校周辺の雪かき  
村内危険箇所の点検・見廻り、資源回収の補助
- その他 登下校時の見守り、交通安全教室での指導  
防犯教室での指導



バックテストの補助

## 特色ある取組み

- 西郷第一支援本部において小学校の学習林に名札を取り付ける支援を行った。
- 西郷第二学校支援本部において小田倉小学校の花壇の除染及び西郷第二中学校の除草後に重機で穴を掘り埋める支援を行った。
- 川谷支援本部において総合的な学習の一環として現役大学生による教育講演会を実施した。中学生が考えている将来への夢や進路、職業等について身近な先輩からのアドバイスをいただいた。



樹木名札取り付け



花壇の除染作業

## 成果と課題

- 成果 (1) ボランティアに参加した方からは学校や子どもたちとふれあうことを楽しみにしているほか、子どもたちへの指導が「喜び」や「やりがい」になったことなどから地域の教育力向上に繋がっていると考えられる。
- (2) 支援を重ねることで学校とコーディネーター及びボランティアとの信頼関係が構築されてきた。
- (3) 支援ボランティア同士の親交・交流が広まり地域の活性化に繋がっている。
- 課題 (1) 各学校間で利用の差がみられた。また、中学校での実施が比較的に少ないため利用の促進が必要である。
- (2) 各種団体(PTA等)との連携方法等について協議が必要である。
- (3) ひきつづきボランティアの発掘と育成に取り組む必要がある。



# 鮫川村学校支援地域本部【福島県鮫川村】

## 事業の目的

- 教員と子どもが向き合う時間を拡充し、子ども一人ひとりに対するきめ細かな指導をするために、地域人材や団体などの参加を得て、学校と地域との連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制を整える。

## 実施対象学校名

- 鮫川村立鮫川中学校

## 事業運営

- ① 実施機関: 鮫川村教育委員会
- ② コーディネーター: 市川裕太
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 8件(延べ47名)
  - ・ 協力団体 鮫川村読み聞かせボランティア「おはなしポケット」
  - ・ ほか、その都度ボランティアを募集

## 事業内容

- ミニ図書館作り
- 本の読み聞かせ
- 愛校作業

## 協力団体

- 鮫川村読み聞かせボランティア「おはなしポケット」

## コーディネーター活動

- コーディネーターは学校に何度も足を運び、学校の要望などを聞いて事業を企画、運営した。また、ボランティアを募集しなくてもできるようなことは自ら積極的に行い、事業の目的達成のために活動した。



絵本の読み聞かせ風景

## 支援内容(具体例)

- 「絵本の読み聞かせ」事業

毎月隔週金曜日に、村内から読み聞かせのボランティアを募り、絵本の読み聞かせを行なった。ボランティアは、読み聞かせボランティア団体の他に、個人にも依頼した。

中学校が現在特別支援学級も含め6クラスあるので、毎回6人のボランティアの方に依頼し、朝の8時00分から8時15分の間に読み聞かせを行なった。本の選定や実施方法はボランティアに一任した。「鮫川なまり」を活用して読み聞かせを行う方や、読み聞かせ前に「脳を鍛える簡単な運動」などを実施する方もいて、その方たちが6クラスをローテーションする形をとったので、生徒たちは毎回違った楽しみ方をしていた。

また、毎回読み聞かせの後には校長室にて談話会のようなものを開き、お互いに反省などを語り合いながら、次回以降に向けて改善点などを探し活用していた。その際に校長先生とも意見・情報交換をしており、校長先生としても、地元の様子を知ったり、中学校の良い点をアピールできたりと、読み聞かせボランティアを通じての他面への波及効果に嬉しさを感じていた

## 特色ある取組み



完成したミニ図書館

### 《「ミニ図書館」作り》

当初は中学校の図書室が生徒の教室から遠い場所にあり、読書への関心や活動が薄れていた。そこで、生徒の教室から近い場所に正規の図書室とは別に「ミニ図書館」を作った。村内よりボランティアを募り、5名の方が集まってくれた。当日は本棚や机運びなどの力作業から、読書意欲をかきたてるための本の配置、効果的な掲示物の掲示など、多岐にわたる作業をボランティアに依頼した。

コーディネーターの適切な指示や、ボランティアの迅速な行動により、「ミニ図書館作り」は1日で終わることができ、学校への負担も最小限に抑えることができた。また、図書担当の先生から運ぶ本についての助言などをいただいた。

ミニ図書館を開館した当初はやはり生徒たちは興味を持って利用してくれていた。課題としては、今後も継続的に開館当初と同じように生徒に利用してもらうことが挙げられる。

ボランティアからは「こういう活動に参加させてもらって大変ありがたい。」という温かい言葉もいただいたので、コーディネーターも喜びを感じていたようだった。

## 成果と課題

- 今年度は、近年の子どもたちの読書離れを考慮し、読書に関する事業を中心に行なった。ミニ図書館には生徒も足を運び、多少なりとも読書量は増えているので、それが成果と言える。また、簡単な絵本でも、幼児期に読んだ時とは違った感じ方があるという読書の面白さを生徒が感じてくれていたように思う。課題としては、受験の時期は勉強をしたがっているような生徒もいたので、学力向上の妨げになるようなことはないようにしたい。また、どの事業についても学校の協力なしにはできなかったものなので、なるべくその負担を減らす方策を常に念頭に入れておかなければいけないと感じている。

# 西会津町学校支援地域本部【福島県西会津町】

## 事業の目的

子どもたちを健やかに育むため、地域全体で学校を支えることができるように学校と地域の連携体制を構築し、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進することによって、教員が子どもと向き合う時間の増加や地域住民の学習成果の機会の拡充、及び地域の教育力の活性化を図ることを目的とする。

## 実施対象学校名

- 西会津町立西会津中学校
- 西会津町立野沢小学校

- 西会津町立新郷小学校
- 西会津町立尾野本小学校

- 西会津町立奥川小学校
- 西会津町立群岡小学校

## 実施機関

- 西会津町学校支援地域本部  
(西会津町家庭教育推進協議会)

## 事業運営

- ①西会津町教育委員会  
(西会津町公民館)
- ②学校支援コーディネーター(1名)
- ③学校支援ボランティア  
・本年度支援実績(23年12月現在)  
(24件: 延べ52名) ・登録(75名)

## 学校支援地域本部の構成

- 小学校長代表(3名)
- 中学校長(1名)
- 小学校PTA代表(2名)
- 社会教育委員の会議長
- 主任児童委員(1名)
- 各放課後子ども教室実行委員会委員長等代表(4名)
- 老人クラブ連合会長(1名)
- 町ボランティア活動サポートセンター(1名)
- 町職員(2名)



野沢小「長谷川をたどる」の様子

## 協力団体

- 西会津町ボランティア活動サポートセンター
- 西会津町老人クラブ連合会
- 福島県喜多方建設事務所
- にしあい福祉会
- 西会津町水泳協会
- 西会津町陸上競技協会
- 西会津町ゲートボール協会
- 野沢草刈踊り保存会 など

## 支援内容

### ●学校の要請に応じて「できる人が、できる時に、できることを」支援する。

- ①学習活動の支援 ~ 授業での支援(習字や図画工作、家庭科等授業における補助、水泳や陸上等の体育指導補助、総合的な学習の時間等でのゲストティーチャー、読み聞かせ活動等)
- ②部活動の支援 ~ 部活動やクラブ活動の指導者補助等
- ③学校環境整備の支援 ~ 校内外の環境整備(遊具や花壇等の整備、草刈、樹木の剪定等)、施設の補修、ホームページの作成・更新等
- ④学校行事等への支援 ~ 運動会等学校行事の補助、異世代交流事業等への協力
- ⑤登下校等の安全確保 ~ 登下校時や社会見学等の授業における道路等での安全確保と指導



尾野本小の「ごみはどうされるか」の様子



チャレンジクラブでの自然学校クラブの様子

## 特色ある取組み

西会津町立野沢小学校では、4年生から6年生を対象とした『チャレンジクラブ』を10月25日に行い、75名の子どもたちが参加した。おもちゃづくり・ゲートボール・和楽器(尺八)・自然学校・ミネラル野菜料理など5種類のクラブ活動を設定し、子どもたちが希望する体験学習をさせることにより、豊かな心や社会性を身につけることを目的に実施した。この活動は地域の方が講師になることにより、地域の子どもの地域で育てるシステムの再生を図りながら、人材の活用と伝統文化の継承に努めたところである。この日は地域の方が先生であることから、普段の授業とは違った雰囲気の中、様々なことを教わりながら交流ができたことは、子どもたちにとって、「地域の先生」とのふれあいをとおした大変貴重な学習となった。

## 成果と課題

本事業の取り組みの成果として、学校側からは、①安全管理ボランティアの支援・指導により、子どもたちが安心して短時間で広範囲の校外学習ができたこと ②「地域の先生」である支援ボランティアの体験談などは、具体的で分かりやすく、子どもたちにとって教えられることが多かったことなどあげられる。

一方、地域教育力の活性化としては、①多くのボランティアが、本事業をとおして子どもたちとふれあうことができたこと ②自分が持っている知識や技術などを教え伝えることができたことなど、喜びややりがいにつながったことなどあげられる。

課題としては、①学校によって本部を活用する学校としない学校があるので、広報活動などで周知を図っていくことが重要である。②小学校が平成24年度より統合され小中それぞれ1校ずつとなることから、今までより密度の濃い支援活動を行っていく必要がある。そのためにもボランティアの育成にもっと取り組んでいかなければならない。



# 北塩原村学校支援地域本部【福島県北塩原村】 ～学校を地域みんなで支える北塩原村「学校の応援団」～

## 事業の目的

○地域の人々が個々の特性を生かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用機会拡充および地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図ることを目的とする。

## 実施対象学校名

- さくら幼稚園
- さくら児童クラブ
- さくら小学校
- 第一中学校
- 裏磐梯幼稚園
- 裏磐梯児童クラブ
- 裏磐梯小学校
- 裏磐梯中学校

## 事業運営

- ① 北塩原村教育委員会(北塩原村公民館)
- ② コーディネーター:酒井 美代子
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 131件(延べ 373名)
  - ・ 登録 35名 協力団体 7団体

## 実施機関

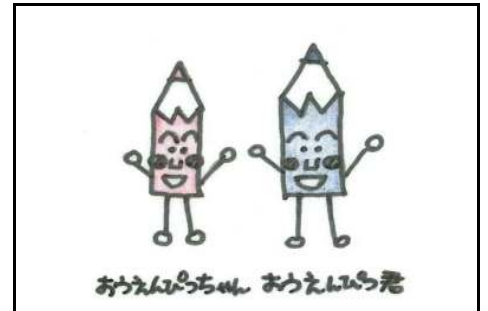
- 北塩原村教育委員会(北塩原村公民館)

## 協力団体

- 交通安全母の会(北山・裏磐梯)
- 北山囲碁愛好会
- 北山茶の湯愛好会
- 手芸の会
- 見守り隊(北山・裏磐梯)

## コーディネーター活動状況

- 勤務日・時間:水・木曜日 午後1時～5時(4時間)
- 勤務場所:教育委員会(北塩原村公民館)
- 勤務内容:学校支援ボランティア活動のPR、ボランティア募集、実施学校の訪問など



《学校の応援団キャラクター》

## 支援内容(具体例)

- 初年度ということで、8月から9月にかけて、村内の幼稚園・小・中学校を訪問し、事業内容の説明と教育活動の現状のヒアリングを行った。
- 学校教職員アンケート調査の実施  
村内の幼稚園・小・中学校、全職員にアンケート調査を実施し、学校の教育活動の現状を把握し、支援の必要性と必要な場面を洗い出した。
  - ・アンケート用紙配布...9月 8日(木)、アンケート用紙回収...9月21日(水)
- イメージキャラクターのおうえんぴつ君とおうえんぴつちゃんを作成し、事業をPRするパンフレットを作成した。
- 10月より村民向けに学校の応援団事業のPRを行うと共に、学校支援ボランティアの募集を開始し、人材バンクの作成も行った。
- 学校支援の内容
  - ①学習活動の支援...各教科の授業の支援、生活、社会、総合的な学習や野外学習などの地域性を生かした授業などの講師派遣・協力)
  - ②学校行事への支援...授業参観、入学式、卒業式、スキー教室、交通教室、講演会、異世代交流等への講師派遣・協力)
  - ③部活動への支援...部活動やクラブ活動の指導者補助等
  - ④その他の支援...環境整備(除草、図書整理)、校務処理、学童クラブスタッフ補助など
  - ⑤登下校等の安全確保...登下校時等のパトロール活動

## 特色ある取組み

学校の要請に応じて「できる人が、できる時に、できるだけ」を支援する

- 第一中学校 文化祭・異世代交流活動
  - ・毎年開催している異世代交流事業をボランティア事業として実施した。
  - ・それぞれの講座を開催し地域の方々を講師(学校支援ボランティア)として派遣した。
  - ・講座:囲碁・将棋、手芸、お手玉、書道、茶道、華道、わら細工、水墨画
- さくら児童クラブ 補助ボランティア
  - ・児童数増加に伴い、補助ボランティアを派遣した。児童と一緒に遊んだり太極拳、紙芝居の朗読、絵手紙(年賀状)の作成したりするなどを行った



異世代交流活動(囲碁・将棋)



児童と一緒に太極拳

## 成果と課題

- 成果(学校側から)
  - ・顔見知りである村民の方がボランティアとして来ていただいたことで、身近に感じて参加することができたと思う。
  - ・いつも一緒にいる大人でない方々が入り込んでくださったことで、新鮮な風が流れて、子どもたちも喜んでいました。
- 成果(ボランティア側から)
  - ・学年によって、子どもさんの動き方も違うので、少し戸惑いましたが、元気な子どもさんたちから、元気をいただいて楽しい時間でした。
  - ・「児童クラブの存在意義とボランティアの重要性」を実感した。この活動は、お年寄りを元気にする活動なので、とても良いと思った。
- 課題(学校側から)
  - ・児童クラブは、保護者の都合で迎えの時間がバラバラであったり、健康上の問題等いろいろな問題を抱えている子どももいるので、ボランティアの話などに興味を持たずに遊んでいる子もいるので、落ち着いた状態が長続きしないこともある。
- 課題(ボランティア側から)
  - ・平成24年度からの本格的導入へ向けて、事業のPRと学校支援ボランティアの募集に取り組むことが必要であると考えている。

# 三島町学校支援地域本部【福島県大沼郡三島町】 ～地域は学校の応援団～

## 事業の目的

- 学校教育のさらなる充実をめざす
- 生涯学習社会の実現
- 地域の絆づくりにつながり、地域の教育力が向上する！

## 実施対象学校名

- 三島小学校
- 三島中学校

## 事業運営

- ① 実施機関：三島町教育委員会
- ② コーディネーター：小柴 奈穂美
- ③ 学校支援ボランティア
  - ・ 支援実績 6件(延べ91名)
  - ・ 登録 28名 協力団体 3団体

## 協力団体

- 安全パトロール隊 (28名)
- 宮下そばの会
- 宮下地区
- 三島町老人会
- 三島スキークラブ

## 田んぼの学校

○5月から10月の約半年に渡って、三島小学校の5年生が宮下地区及び関係機関と連携して稲の生長や米作りについて学びました。本年度も田起しから稲刈り、脱穀までを児童が実際に体験しながら学ぶことができました。



田植えの様子



昔からの道具を使用した脱穀の様子

## 支援内容(具体例)



◎三島町安全パトロール隊 登録隊員 28名

安全パトロール隊のみなさんが児童・生徒の登下校を見守ってくださっています。

◎田んぼの学校 (全9行程)

5月の耕起から10月の脱穀まで、地区の方の指導を受けて子どもたちが米作りについて学びました。

◎そば打ち教室

中学校1、2年生と3年生の2回に分けて実施しました。

◎スキー教室

小学校10回、中学校2回を実施

◎琴教室

中学校音楽科の授業により実施



そば打ち講習会の様子

## 特色ある取組み

○「そば打ち体験」は地域素材を生かした体験活動を通して、郷土の良さに気付く、郷土文化を継承する心を育てる目的で開催されました。地元の任意団体「宮下そば組」のみなさんの協力を得て、開催できました。初めての試みでしたが、双方共に有意義な取り組みだったと思います。

○「安全パトロール隊」はこちらからの呼びかけをすることなく、地元住民の方が率先して隊員に名乗り出てください、たくさんの大人たちの目で子どもたちを危険から守ってくださっています。

## 成果と課題

◎ 地域ぐるみで学校の教育活動を支援することで、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増えたり、地域との交流が生まれた。学校支援が町づくりや高齢者の生きがいにつながる様に学校との敷居をなくし、誰もが学校との関わりを持てるようにして行きたい。また、支援活動に携わってくださった方が次の活動につながる様に、活動後の反省や振り返りを大事にして行きたい。



# 相馬市学校支援地域本部【福島県相馬市】 ～子どもたちの笑顔のために～

## 事業の目的

- 地域と学校の連携体制及び学校活動を支援するボランティア体制を構築し、地域全体で学校活動を支援する。
- 行政・学校・コーディネーターの三者が連携して学校や教師のニーズを捉え、学校支援ボランティアが教師と協力してよりきめ細かな指導を展開する。
- 学校教育における社会人登用を図るとともに、地域の教育力向上及び生涯学習社会の実現を目指す。

## 実施対象学校名

- 相馬市立中村第一中学校
- 相馬市立桜丘小学校
- 相馬市立中村第一小学校
- 相馬市立大野小学校

## 事業運営

- 実施機関：相馬市教育委員会 生涯学習課
- 地域コーディネーター：鈴木 則久・加藤 潤一
- 学校支援ボランティア 支援実績：302件 延べ632名

## 支援内容

### ○ 学習支援活動

読み聞かせ、楽しいパネルシアター、書写指導補助、金づち・小刀指導補助、点字・手話・高齢者体験、ゲストティーチャー（戦争の話・相馬の民謡、日本の民謡、森林環境学習、盲導犬とわたし、相馬野馬追の歴史、市役所・警察・消防署の仕事）町の行事・歳時、昔遊び、昔の道具と暮らし、琴演奏体験、水泳指導補助、校外活動引率補助など

### ○ 部活動指導

卓球・バレーボール・バスケットボール

### ○ 環境整備

図書整理・図書台帳入力

### ○ 学校行事

卒業証書の記名、大野祭（大野小）の補助



卒業証書の記名（中村一中）



盲導犬とわたし（桜丘小学校）



琴演奏体験（中村一小）



相馬野馬追の歴史（大野小学校）

## 学校の垣根を乗り越えて

今年度の図書室の環境整備に関しては、震災に伴う支援図書の受け入れ作業や中村第一小学校の新校舎移転に伴う図書台帳の新規作成などで、学校から例年よりも多くの支援要望があった。

昨年度までの活動は自校の保護者を中心とした数名の図書ボランティアによるものであったが、本年度は他校の図書ボランティアや今までボランティアとして登録していなかった保護者も参加した活動ができ、支援体制が強化された。

- 4校で延べ262名が活動（全体の4割以上を占める。）

中村第一中学校で図書整理をする  
桜丘小図書ボランティアの皆さん



## 成果と課題

本年度は、東日本大震災及びその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故により入学式や始業式も例年より遅れ、4月18日に1学期が始まった。年度当初は学校の体育館が避難所として使用されるなど、学校を含めた地域全体が混乱しており、4月からの事業開始ができなかった。また、今年度から他の中学校区へも対象を拡大させる予定だったが、それも困難になり、昨年度まで実施していた4校のみを対象に2学期から再開した。

学校での学習活動は、放射線の影響により屋外での活動が大幅に制限されたため、従来活発に行われていた校外活動の引率補助や水泳学習の監視補助などは少なく、図書室の環境整備活動を除いては全体的に低調だった。

### 【成果】

- 例年より図書室の環境整備に係るボランティアに多くの協力をいただいた。その際、他校の図書ボランティアやボランティアとして登録していない保護者なども参加した活動ができ、支援体制が強化された。
- 登録されたボランティアが少なかったが、学校の希望する支援内容に応えるために、地域の老人会や有識者、行政機関等へ働きかけ、快く協力をいただき、実施できた。
- 専門的な知識や技能を必要とされる要望にこたえることができ、質の高い学校支援活動ができた。  
（相馬民謡の指導、手話・点字・高齢者疑似体験、町の行事・歳時、森林のはたらきなど）

### 【課題】

- 平成23年3月に学校支援ボランティアの登録更新を実施したが低調で、登録者数は少なかった。今後、積極的に保護者や地域住民へボランティア登録をお願いする必要がある。また、保護者へ協力依頼する際は、学校と連携して実施することが必要。
- 地域の伝統や文化の学習などの支援要望に応えられる体制の充実が必要。
- 学校や教師間で利用に差がみられる。今後さらに、事業の活用を啓発していくことが重要。